

静岡文化芸術大学 文化政策学部 ディプロマ・ポリシー

学習・教育目標		対応するディプロマ・ポリシー(文化政策学部)	
知識・理解	文化政策に関する幅広い知識を体系的に修得しており、人間や文化の多様性ととも、グローバル・グローバルの視点から、現代社会が直面するさまざまな課題についての的確に理解している。	DP1	
汎用的技能	課題解決に必要な語学力、情報リテラシー、コミュニケーション能力、企画立案能力を身につけている。	DP2	
態度・志向性	文化政策への強い関心を持ち、社会の様々な課題の解決に対し、主体性をもって、多様な人々と協働して取り組む意欲・態度を身につけている。	DP3	
総合的な学習経験と創造的思考力	文化政策に関する学際的・総合的な学習を経験し、社会の発展に寄与できる創造的な思考力を身につけている。	DP4	

カリキュラムマップ（文化政策学部科目）

区分			科目名	開講時期	単位数		科目概要	学部DPとの関連			
大	中	小			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
文化政策学部	文化・芸術	—	音楽文化論	1前		2	音楽を持たない文化は世界中に存在しない。しかしその文化ごとに、異なる宗教的、政治的、社会的背景のもとに音楽は誕生し、世代間継承され、また新たな文脈の中で新しい音楽が生まれている。本講義では音楽を文化現象として捉え、様々な時代、様々な国々の音楽を鑑賞しながら、その多様性や多彩さの意味を考える。そうした中で音楽が人間生活とどのような関わりをもっているかを、文化史的社会的背景とともに考え、さらには現代における多様化した音楽(的)現象も考察する。	○	—	○	—
文化政策学部	文化・芸術	—	演劇文化論	1前		2	人間の営みの現れとしての文化や芸術の中でも、演劇をはじめとする舞台芸術は特に古い起源と長い歴史を持っていると言える。舞台芸術の尽きない魅力とその本質を解き明かすために、日本および世界各国において現在もなお上演され、人々に親しまれているさまざまな舞台芸術作品を取り上げ、演劇が置かれている社会的環境や演劇が社会において果たしている役割、さらにはそれらの現状と今後の展望を考察する。	○	—	○	—
文化政策学部	文化・芸術	—	視覚芸術論	1前		2	視覚芸術の意味と可能性を探るために、視覚芸術の発展を振り返り、「見ること」と「表象すること」の関わりを具体的作品を例に挙げながら分析的に考察する。また、視覚表現を成立させている要素に焦点を当て、イメージの持つ機能や力についても考察する。視覚の持つ影響力の大きさが人間の思考と密接に関連しながら社会の中でどのような変化をもたらすのか、またそれぞれの時代にどのような影響を与えたのか、具体的事例に照らしつつ示す。	○	—	○	—
文化政策学部	文化・芸術	—	社会思想史	1後		2	様々な時代や地域における思想を、時代や地理的背景を踏まえ比較対照しながら論じる。多様な宗教や古代から中世に至る思想・哲学と社会、政治、文化・芸術との関係性を考察する。さらに、宗教革命、ルネサンス、市民革命、植民地主義、社会・資本主義などはもとより、近現代の多様な思想や日本を発祥とする思想についても論じる。単なる過去の思想史学ではなく、未来志向の視点や発想を得ることも目標とする。	○	—	○	—
文化政策学部	文化・芸術	—	市民社会論	1後		2	市民社会に関する多様な概念や史的展開を概観する。近年の世界各地における「市民革命」の実態や世界的な非政府組織の発展を踏まえて、グローバルな視点から市民社会と市民の権利について考える。さらに、発展する多様なボランティアや公共サービスの一翼を担う非営利組織の活動についても考察し、文化振興や新たな市民文化の担い手としての市民ネットワークのあり方を展望する。	○	—	△	△
文化政策学部	文化・芸術	—	社会心理学	1後		2	社会心理学は、社会の様々な場面で生じる人間関係や人間と社会の関わりにおける心理および行動に焦点を当て、その仕組みについて研究する領域である。この講義では、他者認識、自己認識、対人関係、説得、援助、集団・集合行動、心と文化といった社会心理学の基礎的トピックについて理解すること、社会心理学の研究方法について理解すること、そしてこれらを通じて、現実的な社会的行動について、心理学的な観点から分析する力を養うこと、を目標にする。	○	—	△	△
文化政策学部	文化・芸術	—	異文化と教育	1前		2	比較文化や教育の理論や方法について理解を深めるとともに、世界の多様な教育のあり方について学ぶ。教育に関わる世界の人々の思いや願い、知恵などを踏まえつつ、これからの日本の教育が進むべき方向について議論する。さらに文化的背景や言語などの異なる子どもの増加に伴う国内の教育事情や課題(外国出身児童・生徒の教育、民族教育など)について探究する。	○	—	○	—
文化政策学部	文化・芸術	—	劇場芸術論	1後		2	社会と共に歩んできた演劇は、劇場との融合から生まれてきた。俳優や舞踊家に先立つ劇場空間が演出を生み出し、演劇や舞踊作品が創造されることを前提に、演劇の基本を学ぶ。歌舞伎劇場、文楽劇場、能舞台、円形劇場、アンフィシアター、プロセニウム形式の劇場などで上演される舞台芸術作品が、なぜ文化施設の計画や運営に関係するのか。劇場の観客なしでは成立しない演劇、ミュージカル、ダンス作品と劇場芸術の世界を革命的に変えた、演劇や劇場人の言説、先行する論考から理解を深める。	○	—	○	—

区分			科目名	開講 時期	単位数		科目概要	学部DPとの関連			
大	中	小			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
文化政策 学部	文化・芸術	—	デザイン概論	2前		2	デザインを初めて学ぶにあたって、本科目では近・現代のデザイン思想や様々なデザイン領域における試行の歴史的な変遷を通して、デザイン行為の基本となる発想や考え方を体系的に学修する。多様化する生活様式・ものづくり・情報伝達・住環境・社会システムを踏まえ、デザイナーとしての職能やそのあり方、活動分野、今後の展開を考える上で必要なデザインの基礎的知識を身につける。	○	—	—	○
文化政策 学部	文化・芸術	—	生体機能論	2後		2	できるだけ多くの人にとってより良いモノや空間をデザインするためには人間の差異や変化について幅広い知識を持ち、人間の持つ種々の特性について理解を深める必要がある。本科目では人間工学や人類学の観点から人間の形態的特徴、感覚・知覚の特性、それらの環境に応じた変化、加齢による変化、各地域における差異等の既存データや知見をもとに、様々なデザイン活動において必要とされる見識を深め、ユニバーサルデザインへつながる考え方を養う。	○	—	—	○
文化政策 学部	文化・芸術	—	世界建築史	2後		2	世界の建築史の概要を理解する。古代から現代まで世界の建築と都市がいかに成立してきたのか、その過程を各時代の代表的な建築の事例をもとにして読み解く。建築空間には多様な形式があり、その背景となる思想も様々である。都市建築空間を成立させてきた歴史的背景を、社会的、文化的、地理的条件との関係も含めて知ることにより、世界の建築史の流れを俯瞰的に知るとともに、現代社会における建築の意義を考察する。	◎	—	—	—
文化政策 学部	文化・芸術	—	現代デザイン論	3前		2	業界の先端で活躍する複数の講師の実体験や持論をととして、多様化するデザイン業界の現状を学ぶ講義である。デザイン実務の内容、デザイナーの役割、職業や職種についての知識、プロフェッショナルとしての矜持など、デザイン現場の最前線の情報を知ること、デザインの意義と学習者自らの将来像への考えを深める事をめざす。	○	—	—	○
文化政策 学部	政策・マネジメント	—	文化政策概論	1前		2	芸術文化、文化財、文化産業、観光、国際文化交流等、文化庁をはじめとした各中央省庁が担っている広義の文化政策について概観するとともに、日本の文化政策の歴史的経緯と、文化権の保障や共生社会の実現等、文化芸術基本法を柱とした文化政策の理念についての理解を深める。さらに、地方自治体の文化政策の骨格となる条例・計画・組織等の特徴と、教育、福祉、まちづくり等他分野との関わり、現状における課題についても学ぶ。	○	—	△	△
文化政策 学部	政策・マネジメント	—	経営学	1前		2	文化政策学部における「マネジメント」領域の導入科目として、営利企業のみならず非営利企業においても重要となる企業経営に関する基本的な概念・フレームワーク・理論について総合的に講義する。企業経営の要諦は、ヒト、モノ、カネ、情報などの経営資源を活用し、社会にとって価値ある製品やサービスを提供することにある。その過程で企業は、戦略策定の問題、経営資源の管理問題、市場適応問題、地域・社会貢献の問題など多くの課題に直面するが、それらに関する基礎的な事項を理解することが本科目の目的である。	○	—	△	△
文化政策 学部	政策・マネジメント	—	憲法	1前		2	この科目では、憲法についての基礎知識を習得することを目的とする。憲法の内容や、日本国憲法を支える基本原理、日本国憲法成立の歴史的経緯といった憲法の総論的な概説を経て、憲法によって保障された権利を対象とする基本的人権の分野と、憲法の基本原理を実現するための国家機関の仕組みを対象とする統治機構の分野について、裁判例の検討を交えながら学んでいく。	○	—	△	△
文化政策 学部	政策・マネジメント	—	生涯学習と文化	1後		2	生涯学習とは何かを明確にしながら、今日の急激に変化する社会の中での生涯学習の基本的課題を概説する。特に、生涯学習社会における子ども・若者文化のあり方に関する検討を通じて、知の循環型社会としての生涯学習社会の構築に向けての課題を探究する。生涯学習社会における学校・家庭・地域の連携のあり方、メディア・リテラシーの問題、キャリア形成の課題、社会教育指導者の役割、学習支援と学習成果の評価と活用等の現代的課題を、映像資料等を活用し、具体的な事例を通じて学習する。	○	—	△	△
文化政策 学部	政策・マネジメント	—	ジェンダー論	1前		2	本科目の目的は社会の中に存在する多様性に関する知識を高め、理解を深めていくことである。特に性別役割分業などの社会構造を理解し、より成熟した社会を実現するためのDEI (Diversity, Equity, Inclusion) について考察する。健康状態、教育や労働・雇用の機会等において性差が存在することに着目し、それらの問題は生物学的な性差によって説明づけられる問題ではないことを議論する。また、このような性差に基づく不平等は、人種やジェンダー、社会階層など複数の相互作用の結果として生じるものであり、個人的な問題として片づけるのではないことを理解する。以上を通じて、公正な社会の実現に向けた社会課題として体系的に理解することを旨とする。	○	—	○	—
文化政策 学部	政策・マネジメント	—	多文化共生論	1前		2	民族的・言語的多様性など、様々な多様性を擁する社会のあり方を考察する。日本とは異なる伝統的な移民国家や近年移民の増加が認められる国家の事例を概観したのち、日本社会における多文化共生のあり方を論じる。日本における外国人市民の増加の歴史的背景を確認した上で、1990年代から展開しつつある多文化共生の諸施策について、基礎自治体の取り組み事例等を紹介しながらその現状と課題を検討する。	○	—	○	—
文化政策 学部	政策・マネジメント	—	地方行政論	1後		2	本科目では、地域レベルの行政活動や施策を理解する上で必要となる基礎的な制度・理論や地方行政の現状について、包括的かつ体系的に解説を行う。本科目を取り上げる内容は、地方自治の理念・制度、地方行政の仕組み、国・地方の関係、地方自治体の機能・構造、自治体経営や行政改革等である。また地域が抱える課題への対応や地域政策の実態についても、事例を取り上げて検討を行う。なお、「地方行政」という科目名であるが、民間主体(地域住民、NPO、市民団体、企業等)が地域の課題の解決に関わる実態も視野に入れる。	◎	—	—	—

区分			科目名	開講時期	単位数		科目概要	学部DPとの関連			
大	中	小			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
文化政策学部	政策・マネジメント	—	会計学	1後		2	資金調達、設備投資、商品の仕入れ・販売など、企業が行う様々な経営活動を、定量的な給付と貨幣の対流関係の写像として描き出すこと(測定)と、それを利害関係者に開示する(伝達)ことの2つの会計行為として捉え、これらを科学的認識の対象とする会計学の基本的な概念を学ぶ。あわせて、企業の経営成績や財政状態に関する情報提供システムとしての会計の基本的原則や技法を中心に、幅広い会計の領域について体系的に学ぶ。	◎	—	—	—
文化政策学部	政策・マネジメント	—	都市経営論	1後		2	都市の経営とは何かということについて、人口減少下に入った今日における経営資源の有効活用の視点、個々の都市政策の実現のプロセスを概観する。同時に、都市の経営を、広く、行政、市民、企業等らの協働する都市のマネジメントと捉え、成熟都市社会における展開方向について考察する。都市経営の範囲は、社会経済、社会資本、コミュニティ、観光、文化など多岐にわたり、これらに関する典型的な事例を取り上げて学習する。	○	—	△	△
文化政策学部	政策・マネジメント	—	アートマネジメント概論	1後		2	文化施設や実演芸術団体等、公益的な目的を達成するための非営利芸術組織のマネジメントであるアートマネジメントの基礎を修得することを目的とする。非営利組織における「使命」の重要性を理解した上で、マーケティング、ファンデレイジング、財務・会計、人的資源管理論、組織論などアートマネジメントの諸領域における基礎的な理論について、国内外の美術館、劇場・音楽堂、オーケストラや劇団等における事例を交えながら概観する。	○	—	△	△
文化政策学部	政策・マネジメント	—	NPO・NGO論	1後		2	NPO・NGOの活動を通じて、市民セクターが社会に果たす役割について学ぶ。政府および営利セクターとの相違点や関わり、法体制や多様な組織の存在について理解を深める。様々な取り組みや実践例から、社会的意義を考察するとともに、将来に向けNPO・NGOの課題と可能性について検討する。	○	—	○	—
文化政策学部	政策・マネジメント	—	ユニバーサル/インクルーシブデザイン概論	1後		2	少子高齢化、多様性の社会に求められるUD/インクルーシブデザインの基礎理論の修得を目的とする。身体や心の障がい、年齢、性別、言語、国籍、文化、能力、環境などを具体的な切り口に、人の多様性を多面的に学び、様々な事例を通して体系的にUD/インクルーシブデザインの理解を深め、各々のフィールドで「誰もが自立した生活や社会参加できるデザイン」について考える力を身につける。	○	—	△	△
文化政策学部	政策・マネジメント	—	非営利セクターの経営	2前		2	これからの市民社会の担い手とされる民間非営利組織についての歴史、制度や理論に関する知識を身に付ける。「使命」の重要性やボランティア、ファンデレイジングの問題等、営利企業の経営との違いについてドラッカーをはじめとした近年の非営利経営の理論を踏まえつつ体系的に学ぶ。その上で、芸術文化やまちづくり等の分野における活動事例、マネジメント上の課題などについて概観し、あわせて、政府や営利企業等との役割分担や連携のあり方についても検討する。	○	—	△	△
文化政策学部	政策・マネジメント	—	文化政策と法	2前		2	文化政策を取り巻く現行諸法の基本的理解を目的とする。文化政策の範囲を広義に捉えた上で、国および地方公共団体が行っている現実の文化政策に注目し、関連する法や条例、国際条約について検討する。文化芸術基本法や、これを受けた地方公共団体の文化政策のための条例のもと、文化法制の基本的な体系の理解とともに、博物館法や劇場法をはじめ、知的財産権や都市計画、まちづくり等に関わる諸法や条例、文化関連の国際条約等について、諸外国の事例も交えて考察する。	○	—	△	△
文化政策学部	情報・リテラシー	—	社会科学の方法	1前		2	社会科学には経済学・社会学・政治学など様々な学問が含まれるが、それらには共通して、社会現象を科学的に見ようとする知的営為がある。ここでは、社会現象を科学的に分析する手続きを紹介し、概念や論理の構成、統計データ(数字)の使い方、専門書の読み方、テーマ選定や引用手続などの論文作法、図書館の利用方法などについて説明する。また社会科学が歩んできた歴史や主な社会科学者の社会科学に対する考え方を紹介しつつ、現在の社会科学が置かれた現状について理解を深める。	○	○	—	—
文化政策学部	情報・リテラシー	—	フィールドワークの手法	1前		2	実地調査を通じて質的(定性的)データを収集するフィールドワークの手法が、社会科学や人文科学など広範な分野の学問において、盛んに導入されるようになった。フィールドワークの実施対象は多岐にわたっており、特定の対象を研究する場合も、テーマや目的など調査者の関心は多様である。こうしたフィールドワークの背景となる考え方や、参与観察・インタビューなど具体的な技法について理解を図る。調査手法を身につけるだけでなく、フィールドワークを行うとはどういうことかを考える。	—	○	—	○
文化政策学部	情報・リテラシー	—	ファシリテーション技法	1前		2	企業や学校、地域コミュニティなど、多様な人々が集まる場や機会において、集団による問題解決、アイデア創造など、グループとしての活動が円滑に行われるように、中立的な立場から支援を行うファシリテーションの手法や技術について学ぶ。事前準備のスキル、本番のスキル、話し合いを組み立てるなどのスキルを身につけ、最終的にはワークショップ等の機会に自らがファシリテーターとしての役割を担うことができるようになることを目的とする。	—	○	—	○
文化政策学部	情報・リテラシー	—	図書館概論	1前		2	社会的な記憶装置としての図書館は、情報通信技術の進歩に伴い、情報基盤の一つとして、一層の多様化が進展している。こうした背景のもとに、図書館の今日的意義や役割、図書館の歴史的発展経緯や種類、図書館に関する法的基盤と行政施策としての政策、各種図書館の制度と機能、図書館員の役割、著作権や知的自由、現代社会における図書館の新たな機能や課題について、解説する。同時に図書館を使いこなして情報収集できる基本的な技術を身につけさせることも目的とする。	○	○	—	—

区分			科目名	開講時期	単位数		科目概要	学部DPとの関連			
大	中	小			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
文化政策学部	情報・リテラシー	—	統計学	1後		2	平均、分散、標準偏差、正規分布、母集団、標本誤差やカイニ乗検定等、統計を利用したり、社会調査を行ったりする際に必要となる統計学の基礎的な知識をもとに、表計算ソフト等を使って簡単な分析ができる能力を身につける。さらに、国勢調査、社会生活基本調査、経済センサス等、文化、社会、経済やそれに関わる政策の研究に必要な統計の特徴についての理解を深める。	○	△	—	△
文化政策学部	情報・リテラシー	—	ディベート技法	1後		2	多様化し複雑化した現代社会で我々が生きていくためには、多面的な見方が必要とされる。他者とのコミュニケーションを通して、様々な角度から考える態度を常に身につけておく必要がある。問題意識を持ち、その問題に関連する情報を蒐集し、蒐集した情報を分析し、論理的に思考する力を養う必要がある。また、自分の考えを人に発信するために、説得力を持ち、論理的な発言ができなければならない。他方、相手の意見を傾聴する態度を備え、正しく理解した上で、論理的な批判力が持てなければならない。こうした一連の能力を実践的に養っていくのがディベート技法である。	—	○	○	—
文化政策学部	情報・リテラシー	—	情報リテラシー論	1後		2	全学科目の「ICTスキル基礎」、「デジタル表現基礎」、「データサイエンス入門」の内容を踏まえたうえで、文化政策学部で行う調査・研究のために必要な文書作成ソフトウェア、表計算ソフトウェアなどのより高度な利用法について学ぶ。また日々変化していく情報化社会の中で、人工知能や機械学習などの意義や限界をはじめ、情報化の深化に伴う変化やその課題についてより深く学び、それに対する改善案や施策についても理解を深める。	△	○	—	△
文化政策学部	情報・リテラシー	—	プレゼンテーション技法	2前		2	この科目の目的は、自分が伝えるべき情報を聞き手に対し分かりやすく表現するとともに、円滑なコミュニケーションを達成するためのプレゼンテーションの手法を習得することである。具体的に言えば、プレゼンテーションにかかるビジュアル表現を支えるさまざまな技法、およびそれらを用いた口頭発表の方法などを受講生に実践してもらい、そのために必要な能力を涵養する。	—	○	○	—
文化政策学部	情報・リテラシー	—	グラフィックデザイン概論	2後		2	グラフィックデザインの歴史的な背景や構成要素である造形や概念を踏まえ、具体的な事例を通して広告・CI/VI・パッケージ・サイン・エディトリアルなど各専門分野の果たすべき役割や最近のデザイン動向について概説する。学生自身がそれらをヒントにして、グラフィックデザインによって視覚化された数多くの情報を理解できるようになることで、多様なメディアにむけた様々なデザイン活動に取り組む上での基礎的知見を身につける。	△	△	—	○
文化政策学部	情報・リテラシー	—	メディア産業論	3後		2	本科目では、メディア産業に関連する様々な立場（製造業、サービス業、個人クリエイター等）から、メディア技術の進展、およびそれによって生じた変化について学習する。また、それぞれの産業における具体的なデザイン上の課題を題材にした体験的学習を通じて、メディアを活用したソリューションについて理解を深める。	○	△	—	△
文化政策学部	観光	—	観光学概論	1前		2	日本では、「観光立国」を目指した政策の下、インバウンドの促進が図られてきている。本科目では、観光学の基礎として、近代ツーリズムの発生、マスツーリズムの隆盛とそれへの批判、その代替としてのオルタナティブ・ツーリズムの登場と展開、そして、サステイナブル・ツーリズムへの志向などの観光/ツーリズムの歴史的潮流を、文明や文化という視点に配慮しながら学ぶ。	○	—	○	—
文化政策学部	観光	—	観光と社会	1後		2	古より今日に至るまで、人類は移動をし、生活を営み、文明を築いてきた。観光現象は、人類社会を映す鏡でもある。本科目では、さまざまな旅や観光の現象を通して、人類社会のあり方について考える。人類社会が観光/ツーリズムに何を求めてきたのか（求めているのか）、また、観光/ツーリズムが人類社会にいかなる影響を及ぼしてきたのか（及ぼしうるのか）について探究する。	○	—	○	—
文化政策学部	観光	—	グローバル観光論	2前		2	国際社会において、ツーリズムは「平和へのパスポート」と謳われ、貧困の削減、あらゆる文化の尊重、環境の保全などの地球上の諸問題を解決する方法の一つとして期待されている。本科目では、グローバルな現象としての観光/ツーリズムについて、越境に関する国内・国際的な仕組みや異文化間の接触・交渉のあり方なども含め、さまざまな角度から考える。国際機構や各国の具体的な事例も紹介し参考とする。	○	—	○	—
文化政策学部	観光	—	観光と地理	2後		2	本科目では、文明の観点を取り入れながら、地理的に一定の地域の観光資源、地域とツーリズムの関わり方、地理上の各地域の文化の特徴を考える。また、特定の地理上の地域において、インバウンドとアウトバウンドの両方の問題に配慮する。本科目のキーワードは、「文明」、「地理」、「観光」の3つである。地域ごとの人文地理と観光の関係について考える。	○	—	○	—
文化政策学部	観光	—	観光ビジネス論	3前		2	本科目では、観光をめぐる研究・理論と観光の現場を取り結ぶような知識について学び、より良い観光/ツーリズムのあり方について考える。まず、観光業が立脚する法律や政策の内容を理解できる知識を養う。その上で、観光に仕事として携わるステークホルダーに光を当て、その活動について学び、その現状や諸課題について考える。	○	—	○	—

区分			科目名	開講 時期	単位数		科目概要	学部DPとの関連			
大	中	小			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
文化政策 学部	観光	—	日本伝統建築	3前		2	日本の伝統建築は、古代、中世、近世、近代とその時代の歴史や文化を背景に様式を確立し、継承してきた。その建築様式と技術の歴史、さらに建築を構成する木材や石材、漆、鉄、紙等の材料や、建築を造り上げてきた鑿、鉋、鋸等の道具について幅広く学ぶ。また文化財政策の歴史と現状、伝統建築の保存・修理・活用に関しても理解を深め、静岡県の文化資産ともいえる伝統建築のあり方も考える。	◎	—	—	—
文化政策 学部	観光	—	テキスタイル概論	3後		2	人類は太古の誕生間もない頃から自然界にある繊維をまとい、やがて自ら織り、染めてきた。衣服としてだけでなく居住環境にも応用することで、生活を豊かに、快適に、美しいものにしてきた。そのような人と繊維の関係に関する歴史、文化、技術、産業の変遷を通してテキスタイルに対する理解を深めるとともに、新たなテキスタイルの可能性について学ぶ。	◎	—	—	—